



## 店主に気の迷いあらば、 ぴしっとたしなめるのだ。

畜産農家で生まれ育った男がマスメディア界に入り、大活躍していた。が、思うところあって、「牛肉」に携わる道を選び直した。そうしてスタートしたのが「あかまる牛肉店」である。

飲食店でありながら（もちろん販売もするが）、「牛肉店」とあえて明示するところに店主の思いがこめられているにちがいない。子どものときから見ており、生産者の苦勞もころざしも身に沁みている。その熱きものを消費者であるお客さまの一人一人に、あるがままに伝えていきたい。そのため、橋渡しでありたい。

店主は結婚する。できれば冷たい雨や風に当てず、大事に飾っておきたいような可憐な新妻、鳥飼穂菜美さんだ。結婚後二年目から店を手伝うようになった。裏方の予定だったが、まもなく店を切り盛りする重要な一員となった。

「おっとりしているように見えますが、芯の強さはなかなかのもので……」店主はひそひそ声で言う。終業後、二人で過ごす時間のほとんどは仕事に関する話。「私が、ちょっと気の迷いのようなことを口走ると、（かわいい顔して）ぴしっとたしなめられます」

時間をかけて県外から訪れる客も少なくない。その人たちの要望をていねいに聞き取る妻のようすは、もはや熟練の域でもあり、

「このお肉の素晴らしさを、一人でも多くの方に知ってもらいたいと思います」と、鳥取和牛の伝道師でもあるのだ。

あかまる牛肉店 ハワイ店  
鳥飼穂菜美



ゆ  
う  
ゆ  
う、  
ゆ  
り  
は  
り  
ま